令和3年12月14日

学校規模適正化調査特別委員会

阿久根市議会

1 会議名 学校規模適正化調査特別委員会

2 日時 令和3年12月14日(火)

午後1時30分開会

午後4時10分散会

3 場所 議場

4 出席委員

濱田洋一委員長、濱崎國治副委員長、竹之内和満委員、
川上洋一委員、濱門明典委員、白石純一委員、
竹原信一委員、仮屋園一徳委員、中面幸人委員、
牟田学委員、岩崎健二委員、木下孝行委員、
濱之上大成委員、山田勝委員

5 次長兼議事係長 上脇重樹 議事係 松崎正幸

6 参考人及び補助者

参考人

請願者 集団行動が苦手な児童生徒に小規模校を残す会 代表 西田数市氏

補助者

請願者 集団行動が苦手な児童生徒に小規模校を残す会 副代表 渡辺久治氏

7 説明員

教育総務課 課 長 山元正彦君

学校教育課 課 長 徳重忠彦君

課長補佐兼管理係長 新坂謙二君

主幹兼指導係長 山之内進一君

8 会議に付した事件

(1) 請願第1号 学校規模適正化における小規模校の存続を求める請願

(2) 本市の小・中学校における適切な規模に関する調査について

9 議事の経過概要 別紙のとおり

調査の経過概要

○ 請願第1号 学校規模適正化における小規模校の存続を求める請願

濱田洋一委員長

ただいまから、学校規模適正化調査特別委員会を開会いたします。

請願第1号を議題とし、審査に入ります。

本日の日程につきましては、御手元に配付しましたとおりでございます。

また、審査に当たり請願者から資料の配付がありました。御手元に配付しておりますので、御確認をお願いいたします。

本日は、さきの委員会で決定したとおり、請願者を参考人として呼びしておりますので、請願趣旨や意見を聴取いたします。

呼びした参考人は、西田数市さんです。

参考人から補助者として、同じく請願者の渡辺久治さんを同席させたいと求められておりますので、これを許可したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認め、補助者の同席を許可します。

それでは、参考人及び補助は入室してください。

〔参考人・補助者入室〕

参考人及び補助者に出席いただきました。

参考人及び補助者におかれましては、大変お忙しい中、本委員会の審査のために御出席をいただき、誠にありがとうございます。委員会を代表して御礼申し上げます。

参考人及び補助者をお願いを申し上げます。発言される際は挙手をしていただき、委員長から指名を受けた後をお願いいたします。

また、委員会記録作成のため録音しておりますので、マイクを近づけてお話しくださいようお願いいたします。

それでは、請願趣旨について、参考人に説明を求めます。

西田数市参考人

こんにちは。代表の西田といいます。隣にいるのが副代表の渡辺でございます。

今回、私たちが請願書を提出した理由は、教育委員会が一方的な小学校の統廃合を打ち出したことにあります。10数年前にも教育委員会が一方的な中学校の統廃合を進めようとして、周りの大きな反対を招き、計画は行き詰まりました。今回も、また同じで、保護者や地域住民を無視しての教育委員会の方針の発表でした。今は説明会を行っているようですが、順番が間違っていると思っています。本来なら先に、保護者、住民への説明を行い、その意向を酌んで教育委員会の方針を立てて、その方針に対する意見を聞く形にすべきではないでしょうか。前置きはこれぐらいにします。

さて、日本全国で少子化が始まって、どのくらいたつのでしょうか。子供たちの人口は減る一方で、何かしらの障害を抱えた子供たちが増えていることは間違いありま

せん。そこで、今回の学校統廃合の問題は、大きな学校で集団行動が苦手な児童・生徒、障害を抱えた児童・生徒、いじめに遭った児童・生徒に小規模校を残して、教育の場所を与えるということを考えていないことです。特認校制度で通っている児童・生徒や保護者の中にも、集団行動が苦手な方々もいらっしゃると思います。私たちは、統廃合に絶対反対というわけではありません。大きな学校で思う存分学びたいと思う児童・生徒は大きな学校で学び、集団行動が苦手な児童・生徒は、特認校制度を使い、小規模校で学べるという選択ができるように、請願書を提出させてもらいました。

以上のことを踏まえて、以下、六つの事項を請願します。

1、規模の大きい小学校になじめない子供たちの受皿として、地理的配置も考慮の上、小規模校の学校を可能な限り残す方針で進めていくこと。

2、障害のある子供たちを指導する特別支援教室を統廃合の学校の1か所にまとめることには無理があり、子供たちへの適切なサポートを実践するためにも、存続する小規模校で特別支援の指導をしていくこと。

3、説明会は、統廃合ありきではなく、保護者、地域の方々への丁寧な説明を行い、合意形成には時間をかけ、強引に統廃合を進めないこと。

4、学校適否の判断は、市長と教育委員会と密接に連携して、まちづくりの戦略の一環として行い、地域とともにある学校づくりの視点を持つこと。

5、市民の多くに、小規模校存続の方針を掲げ実践している自治体のやり方や、教育の専門家などの意見も十分に知る機会を設け、市民全体がこの問題を考えられる方策を進めること。

6、十分な話し合いをするために、令和6年4月という統廃合の期限を撤廃すること。以上が請願事項です。

また、参考資料として、市内の特別支援教室に通う学校名と人数、県内の特別支援教室に通う人数、市内の自立支援教室の人数、市内の特任校に通う学校名と人数、それと、県内の特認校生募集の例を提出します。

委員の方々、自分の子供、孫が学校に通っているつもりで考え、優しい気持ちで質問をしてくださいね。

濱田洋一委員長

参考人の方、今資料を2枚配付していただきましたが、具体的な説明はよろしかったですか。

西田数市参考人

市外の霧島市の小浜小学校の特認生募集のポスター。一応、校長と話をして許可をもらっていますので、参考資料としてということで。それで、校長の意見としていろいろ話を聞きました。絶対にやっぱり小規模校は残すべきということを言っていました。

濱田洋一委員長

それでは、補助者の方から補足説明はありませんか。

渡辺久治補助者

本日は発言の場をいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、本請願に関して、参考人代理人として違う視点から、私個人の意見を付け加えさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症は、我が国でも昨年当初から感染者が確認され、これまでのコロナ禍の状況により、職種によってはリモートでの仕事が十分可能であることが実証されております。加えて、最近のオミクロン株への変異の状況等を見ますと、これらの感染症に留意を要する状況は当分続くことも予想されます。また、最近のSDGsに象徴される自然への回帰願望も相まって、今後ますます都会離れに拍車がかかることが予想されます。それらの変化の状況を踏まえて、今後地方においても、定住地域として選ばれる田舎としての、学校などの教育、文化、インフラの特徴は必須条件になると考えます。それらのことを令和3年5月の阿久根市学校規模適正化2次方針では論議した形跡が見られません。見方によっては国の方針だけを重視した機械的で画一的な基本方針と考えますがいかがでしょうか。したがって、令和6年4月の統廃合の期限を撤廃し、生徒数によっては維持し得ない学校は、当分の間は休校扱いとし、これらコロナ禍やSDGsなどの今後の状況の変化も俎上にのせた上で論議を重ね、この地域に合った学校の在り方を探ってもらいたいと考えるものです。以上であります。ありがとうございます。

議員諸兄の御賛同のほど、よろしくお願いいたします。

濱田洋一委員長

参考人及び補助者の説明が終わりましたので、質疑を行います。

質疑ありませんか。

竹之内和満委員

請願事項の2番目に特別支援教育について触れられているんですけども、参考資料を見ますと、県内の特別支援教室に通う人数が2017年度は4,001名だったのが、僅か4年後の2021年、今年は7,343人と激増しております。児童・生徒の全体数はどんどん減少していく傾向があるのに、なぜこのように特別支援教室に通う児童・生徒の数が増えているのでしょうか。どういうふうに思われてますか。

西田数市参考人

障害の子供も増えている、情緒と知的が増えてきているのは確かなんです。その前に、保護者、祖父母、その方々の特別支援教室に対しての理解ができて、昔の祖父母は特殊学級というイメージがあったものですから、祖父母が言わっからか、そこに行かしたら隣近所の目もあるから行かしたくないという保護者、祖父母が多かった。でも、特別支援教室、その教育に対して理解を示してきた結果、年々増えてきたというふう聞いてます。

竹之内和満委員

そういう理解が進んだから、割と簡単に入れるようになったということなんですか。特に阿久根小は13クラス70名なんですけど、全校生徒から見て恐らく5分の1ぐらいなので相当数多いという感じなんですけど、1クラス8名が基準ということで、ここに7校統廃合したら、山下、田代、大川、尾崎、鶴川内入れたら13名なんです、今の時点で。この人たちが阿久根小に来るとなると、またクラスは増えるんじゃないかと予想するんですけど、13クラスが15クラスになったりとかいうような形の特別支援の指導はどうであろうかという2番目の請願事項なんですか。

西田数市参考人

そうですね、統廃合になった場合はそうなってしまいますので、阿久根小に一貫し

てクラスが増えるということですね。大体1クラス8名が国の基準になっていますので。それに対して教員が1名ですね。情緒と知的と分かれているクラスもあります。2クラスとか。折多とか、大川小、脇本小、知的と情緒にクラス分けしてあると聞いてます。この子たちがその大きな学校の特別支援教室に入っても、なじめるのかっていう心配もあるんですよね。大体、今、特認校に行ってる子供たちは、特に保護者もなんですけど、集団行動が苦手な保護者もいるし、子供たちも多いんですよ、一部ですね。それを懸念して小規模校を絶対残すべきということで請願書を出したところですよ。

仮屋園一徳委員

請願の中に、子供の意見とか親の意見等について、何も記されていないんですけど、子供は、統合についていろいろ意見は恐らく言わない子供が多いとは思いますが、ただ複式方式、あるいは小規模校はしたいスポーツ、運動等についても非常に限られてくるといった面の子供・親の意見というのは、参考には聞かれなかったんですかね。

西田数市参考人

最初の説明であったように、統廃合は反対じゃないんですよ。大きなところで学びたい人は学んでいいんですよ。だから、クラブで行きたい人は行って、集団行動が苦手な子供たちは小規模校で学ばばいいという趣旨なんです。親の意見は聞いていますよ。保護者からも、どっちの立場も大きな学校で学ばせたいという保護者からも聞き取りました。両方の保護者とも話をしてみました。その結果、やっぱり大きな学校だけの統廃合じゃ教育は行き届かないということですね。集団行動が苦手な子は、どうしても大きな学校では無理なんです。小規模じゃないと。そういう子供たちへの配慮を考えて小規模校を残してくれという請願なんです。

仮屋園一徳委員

分かるんですけど、統合予定されている学校については、ここにもあるように、田代、山下、鶴川内、尾崎、西目それぞれ学校の特色、学校のいろいろな行事等がありますが、その学校によって違うんですが、その辺の調査も十分にされての請願ということで考えてよろしいんですかね、その辺、もうちょっと詳しく教えてください。

西田数市参考人

地域によっては統廃合は賛成というところもあります。そういうところは統廃合してもいいと思ってます。でも、やっぱり苦手な子供たちがいる中で、小規模校は残さないかとじゃないですかということです。だから、統廃合は反対じゃありません。大きな学校を残してもいいんじゃないですか。大きな学校も小規模校もということなんです。

仮屋園一徳委員

今、特認校については、どこを残したほうがいい、どこがこのような学校で残したほうがいいと、そこまでについては何も考えてはいらっしゃらないわけですかね。全体的に考えての請願ということですか。

西田数市参考人

名前を言っているのか、決めてはあるんですよ。小規模校ということで小学校名は言いませんけど。特認が多い西目小学校、海があつて環境的にも学びの場にはいいと思っています、海の小学校として。もう一つは、来年は田代が子供たちがいなくなる

という話を聞いてますが、山があり川がある田代小と西目小。海の学校の西目、山の学校の田代、この二つを子供たちに選ばせれば良いと考えてます。最悪の場合、二つだけ残った場合ですね。

濱之上大成委員

7番議員にもちょっと関連するんですけども、まず請願の趣旨の5行目の、事情の異なる小学校区ごとに十分酌んでいない、ここの点はどういう意味ですか。請願書の趣旨の上から5行目のところです。特に小規模校の保護者地域の方々の意向をそれぞれってこう書いてあるんですが、私、小規模校のメリットは十分に理解してるつもりなんですけども、これどういう意味ですか。

〔西田数市参考人持参した文書を見る〕

じゃあ結構です。それじゃ2枚目の2番目について。まず気になったのは、集団行動が苦手な児童生徒に小規模校を残す会という題名になっていますよね。そこで、この請願事項の裏面の2番目の障害のある子供たちのところにあるんですが、請願者ですから御存じだと思うんですけども、県内、まさにこの資料のとおり、もう3倍近く7,343人いらっしゃいます。これはもう事実です。このことは小・中の教員免許を持っていれば特別支援学校の免許を持っていなくても特認学級の専任もできるわけですね、御存じだと思うんですが。ただ問題は、小規模校の状況においては、特別支援学級がもし1人欠けたとしたら先生もいなくなるということに値するわけです。そこで、子供が途中でいなくなったときに学級数が減る状況も出てくるわけです、小規模校の場合は、そこで、この点についてどのようにお考えですか。

西田数市参考人

特別支援教室の教諭の話からまずします。4、5年ぐらい前から養護教諭というのは、県内でも全国的にも教員免許を持っている人は少なく、県が独自で2時間の講習を受けて特別支援の教室が受け持てるように対応してるところなんですよね。今はどうか分かりません。多分、教諭免許を持っている人で養護教諭の免許を持っている人は少ないと思います。でも、先ほど言われた田代小学校みたいに地元の子は特別支援に1人いらっしゃいますよね。あと2人は出水とか、山村で来てる子たちだと思うんだけど、その子たちが来年度からいなくなるということで、支援学級におった子は、結局は阿久根小学校と鶴川内小のほうに移るような話をちょっと聞いてますけど。これは教育委員会が統廃合を最初でうたってしまったから、どうしてももう統廃合されるんだという地域住民、また保護者、みんながそういう考えになってしまって、どうしてももう移動させにやいかんという気持ちになってしまったんですよね、実際。分かりますか。最初で統廃合を令和6年にはやりますって教育委員会が言ってしまったから、地域の人たち、保護者の人たちも心配になって、人数が減ってくれば、もう卒業していったら、あとは二、三人残る、これはどうしようか、転校させないかせんかっていうふうに普通、心理的になってしまいますね。そうやって追い詰めたのは教育委員会であって、私はそう思ってますけど、回答になってませんが、よろしいですか。

濱之上大成委員

学校規模適正化基本方針というのは、今話合いをしているわけですね。そこで、お宅も御存じだと思うんですが、特認校とかおっしゃってるんですが、この発達障害者

というのは三つに分かれます。広汎性、それから学習性、それから多動性の三つに分かれてるんですね。ここで例えばアスペルガー症候群とかこういった個性的な、本当は障害があってないような、すごい特異なことをできる生徒もいるわけです。今後のこういった、（発言する者あり）いや、だから今言ってるのは小規模校だけを、メリットもあるんだけど、果たして小規模校だけでこういった障害児を見れるのかといったときに先生の数の問題とか出てくるものですから、それをどのようにお考えですかと先ほど聞いたわけです。

西田数市参考人

発達障害の件で詳しく言われましたけど、そういう子供たち、障害者の意向で大きな学校の特別支援に行けばいいし、小規模校に行ってもいいし、それは自由選択でいいんじゃないですかという趣旨だから。最初に言ったでしょう、統廃合反対じゃないって。全部残してくれって言ってるわけじゃないんですよ。だから、子供たちが大きな学校で学びたかったら、保護者や子供に任せればいいんじゃないですか。結局、手薄になるところは教育委員会がバックアップしていけばいいわけでしょう。そういうことでしょ。

濱之上大成委員

私が言ってるのは、小規模校存続を求めている請願者の方がどのようなお考えかをただ聞いてるだけであって、私は統廃合賛成だ反対だとかそういう問題で聞いてるんじゃないと思います。小規模校を、先ほどから答えがなかったもんだから聞いてるわけです。事情の異なる小学校区ごとにとか書いてあるものですから、どのようなお考えで小規模校を存続させるためにはどのように考えているのかなという意味で聞いてただけですから。いいです。了解。

濱田洋一委員長

ここで、休憩に入ります。

（休憩 午後1時59分～午後2時2分）

濱田洋一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

西田数市参考人

先ほど間違いがありまして、申し訳ございませんが、養護教諭ということは保健の先生のことでした。ちょっと興奮してしまいまして。特別支援学校の教員の免許ということです。申し訳ございませんでした。

中面幸人委員

提出者は、議員時代も現在においても、いろいろ子供たちのことに対して真剣に取り組んでいらっしゃると思いますが、提出者から見て、現在の阿久根の教育委員会の取組についてどう思っていると思いますか、満足していらっしゃいますかということ。子供たちのいじめ問題とか不登校に対しての教育委員会の取組について、どう思っていると思いますかということ。どう思っていると思いますかということ。どう思っていると思いますかということ。

西田数市参考人

教育委員会に対しては、今回の統廃合に対してだけはちょっと間違ってるかなって

思っているところなんです。でも教育の面では、ちゃんと阿久根市の子供たちのためには頑張っていると思っています。確かに教育委員会も頑張っていると思います。でも、財政的にも厳しいのは分かっているんですよ。だから、全部を残してくれっていうわけじゃなくて、できる限り小規模校を残してくれと、取りあえずそういうことです。

岩崎健二委員

請願事項の2番目のところで、統合後の学校を1か所でまとめることには無理があるとあるんですが、どう無理だと考えていらっしゃるんですか。請願事項の2番のほうに、統合後の学校1か所にまとめることに無理があると記載してありますが、どう無理があると考えですか。

西田数市参考人

今、阿久根小学校が13クラスあります。13クラスで70名です。これでまた統廃合した場合、全部統廃合した場合がまだ1クラス、並びに2クラス増えるかもしれませんが、それを一つの学校でというのは、ちょっと無理があるかなって。私が4年前、5年前から取り組んでる時には、最初は4クラスでした、阿久根小学校が。それがその途中で2年ぐらいで8クラスになり、うちらが議員でなくなったときにはもう2クラス、今は13クラス、ちょっとこれは増え過ぎて手薄い教育になってしまうんじゃないか、これを小規模校に振ってもいいんじゃないかっていう気持ちもある中で、でも、西目みたいに特別支援教室がないところは、地元の子が特別支援に入る子がいないと特別支援教室はつくれないというルールがあるみたいで。その中で特別支援がある学校も小規模校で残してもいいんじゃないかっていうことです。要するに、人間が増えてくれば、ちょっと無理があるんじゃないですかっていうことなんですよ。

岩崎健二委員

先ほどからお話を聞いてると、統廃合に絶対反対じゃないんだと。大規模校に行きたい子供たちは大規模に行けばいい。そうでない子供たちは小規模校を残して支援学級に行けばいいというような話をされたと思うんですが、そうなりますと、小規模校を仮に残したときに、その学校は特別支援学級だけになるんですか。

西田数市参考人

そんなふうに誤解される場合もありますが、そういうことじゃありません。全体を見て、集団行動は苦手な子供たち、特別支援だけじゃなくて。特別支援の中でも集団行動が苦手な子供もいます。普通の子もいます。その子供たちのために小規模校って言うてるんですよ。特別支援だけじゃないんですよ。だから、小規模校を特別支援学校みたいにつくって言うてることじゃないでしょ。分かりますか。

岩崎健二委員

この2番目のほうにも、存続する小規模校で特別支援の指導をしていくと記載してあります。ということは、残った小規模校で特別支援教育をまとめてやるということになると思うんですが、そういう理解でよろしいですか。

西田数市参考人

今、岩崎委員が言ってるのは、小規模校に特別支援をみんな集めろっていうふうに理解しています。

岩崎健二委員

この文書を見る限り、存続する小規模校で特別支援の指導をしていくと記載してあ

ります。ということは、この文章を読む限り、残された小規模校は特別支援のための学校と読み取れるんですが、そのような理解ですか。

西田数市参考人

岩崎委員はそんなふうに取りましたけど、そういう意味じゃなくて、存続する小規模校で特別支援の指導をしていくということです。大きな学校の特別支援教室も苦手な子供がいるから。皆さんどう思うのか知らないけど、こっちから聞きます。皆さんはどう理解してますか。

〔発言する者あり〕

濱田洋一委員長

すみません、参考人、よろしいですか。今、この請願事項の2番目でありますけれども、これは障害のある子供たちを指導するというので、そういった特別支援教室のことについて記載をされているという理解を、ほかの委員の方々はされてるかと思えます。

西田数市参考人

今の理解の仕方は、小規模校に特別支援を集めてするって言ってますよね。そうじゃないですよっていう話やから。

〔発言する者あり〕

濱田洋一委員長

よろしいですか。ですからこの請願事項の2番の記載の仕方というのがそういうふうに受け取れる文章ではないのかなと。文言を読んどって私自身もちょっと感じるんですが、そのことを特別支援教室に関連することではないということでもよろしいですかね。

西田数市参考人

そういうことではありません。

濱田洋一委員長

それでは休憩入ります。

(休憩 午後2時12分～午後2時14分)

濱田洋一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

西田数市参考人

2番目の件に対して誤解を招くような文章になっていますけど、決して、小規模校1か所に特別支援教室をまとめるというわけではありません。

岩崎健二委員

そのことについては分かりました。了解です。先ほど話の中に海の学校、山の学校、2校ぐらひは最低でも残してほしいような参考人のお話がありました。そこで、西目小学校には今のところ特別支援教室はないということですので、新しく西目小学校にもつくるということになるかと思えます。請願者の意見を聞くことですね。そうなったときに、じゃあどのような分け方をしていくのかということも出てくると思えます。西目小にやるのか、田代小にやるのかというようなことにもなるかと思えますが、

そういうときにどういうふうな分け方をするのかということまで考えていらっしゃるの、いやそこまでは考えていないというんだったらそれでも結構です。請願者の御意見だけ伺います。

西田数市参考人

先ほども言いましたけど、地元の子がいないと特別支援教室はつくれないというルールがあるみたいです。田代小には特別支援教室は今あるんです。特別支援教室に通ってる子で、小規模校に通いたい方は取りあえずは田代小と思っている。最低でも二つ残った場合の話ですよ。例として今話ししてるところです。具体的に考えてますかという質問でしたので。だから、取りあえず海の西目小学校、山と川がある田代小学校、二つ残してもらいたいという。西目小学校には特別支援教室がない。地元の子が支援学級に通っていないとつくれない。田代小は特別支援教室はある。でも、来年の4月からいなくなる。休校なのか廃校になるのか分かりません。希望としては休校にしてもらいたいという気持ちはいっぱいありますけどね。だから、そこまでは、もし西目小学校に特別支援の子が行きたいってなったときには、ちょっとそこまではまだ考えてないところです。

岩崎健二委員

私は、小学校1年、2年、3年、4年、複式学級の経験があります。通常の子供たちで、複式学級、小規模校を残すといっても、今おっしゃるように特別支援教育だけじゃなくて一般の子供たちも残すという考えだと思いますが、そうしたときに、通常の児童・生徒の複式学級のデメリットというのを検討されたことがありますか。

西田数市参考人

例として、霧島市の小浜小学校の特認校の話になりますけど、そこも複式です。今年8名特認で入学し、来年度は10名が予定してるみたいです。皆さん複式学級を懸念しているところだと思いますけど、その件も校長先生に聞いたら、しっかりと教員が責任持って教育してるって自信持って言っていました。だから、その複式だろうと何だろうと、先生たちは一生懸命子供たちを教育してるから大丈夫だと思いますよ、複式でもという考えです。

岩崎健二委員

そこは経験しないと分からない部分もたくさんあると思います。複式学級、少なくとも1人の先生が2学年を持つわけですから、一方の学年するときには一方の学年は先生は面倒見れない、これはもう事実です。どうしようとこれは変えられない。だからそうすると授業の進捗とか度合いとかっていうのは違ってくる、これも間違いないです。だから小規模校を残してください。そこにも特別支援の生徒だけじゃなくて通常の児童・生徒も残るんです。そこに複式学級は発生します。そういうデメリットもあるかと思いますが、そういうことも勘案して考えて出されたのか、あるいは、特別支援教室の子供たちをメインとして考えたのか。どちらですか。

西田数市参考人

全部を見てです。普通の子供、集団行動の苦手な子供たちもいるんですよ。また、特認校に行っている子供たちでも集団行動が苦手な子供たちもいるんですよ。特別支援にも中にはいるんですよ。その中で大きな学校に行きたい人もいますが、小規模校で学びたい人たちもいます。ここは子供たち、保護者の選択があってもいいんじゃない

いですかということです。

岩崎健二委員

私の認識不足だったときはごめんなさい。集団行動が苦手な児童・生徒、ある意味の特別支援を必要とする子供たちというふうに私は理解しとったんですが、そうじゃないんですか。

西田数市参考人

そうでないですね。普通の子でも集団行動が苦手な子供がいるんですよ。大きな学校へ行って、結局、障害の子供が集団行動になじめないって思ってるんじゃないですか。どうですか。

濱田洋一委員長

参考人、委員に質問はできかねますので。今、岩崎委員から複式学級のことと、特別支援教室のことについて、どちらのほうを参考人の考えられるところでしょうかということです。

〔西田数市参考人「答えたから」と呼ぶ〕

その事を言っていたら。

西田数市参考人

取りあえず、普通の子も皆さんひっくるめての小規模校の請願です。

岩崎健二委員

いや。私の認識だったらごめんなさい。私が思っていた特別支援教育はもともと障害のある子だけじゃなくて、集団行動の苦手な子供たちも特別支援教室でやらないといけない子供たちだと私は理解しとったんですが、違うんですかって私は質問したんですよ。

西田数市参考人

その理解は間違いだと思います。

山田勝委員

私はね、認識不足だったり、昔の人間で考えが足りない部分もあるんですが、なるほどねえ、大規模校になじめない子供とか、あるいは特別支援学級の必要な子供というのもあると思いますよ。しかしながら、全部こう仕分をして全部が行き通るようなことはなかなかできないという気がしますね。そういうことで、例えば阿久根小学校1か所に集まるっていうことは、やはり無理な部分もあると思いますよ、全部ですね。しかしながら、山の学校と海の学校とって、これ仕分しなさいっていうのも、それもまた簡単にいく話じゃないような気がしますよ。ただ、ふとこう思うのですが、田代があります、鶴小があります。尾崎があります、山下があります、西目があります、大川がありますね。こういうことであつたらですね、例えばこれは一つの例ですよ。真ん中の山下小学校に、そういう特認校、大規模校に行きたくないような、そういうなじめないような子供はもちろん、あなたが言われるような先生と父兄が決めることですよ、最終的にはね、父兄が決めることですけど、山下小学校が地理的にもよかであそがよかが、というような形でね、別に山下小学校でもそういう学校をやってもいいんじゃないかなと。僕の個人的な考えですよ。というのは、何もその二つに分けなにかんとか、どひこに分けなにかんという決まりはないじゃないですか。ただ、1か所に集めるというのでなくて、一つぐらひはそういう学校を造ったほうがうまくいく

かなあと、今思っただけです。私は教育の専門家でもないし、そういう心理学の専門家でもないので、ただ単に人間としてそういうふうにしたわけなんです。ある程度はね、人間というのは人が育てますよ、人が。人と会って話をすること、人と会っていろんなことをやることによって人間というのは育っていきますよ。ですから、それは簡単においげん子はなじまんでっていう具合にはいかない部分もあると思いますよ。ですからそういうことを、全体の中でそういう方法もあるかなあと今、思っただけです。

西田数市参考人

いいアドバイスありがとうございます。先ほど考えていますかっていうことで、どこを残したらいい、取りあえず阿久根は、海、山。阿久根は海と山があって、ぱっと思いついたのが海の西目が近いから西目小学校。そして、山があって川が流れて景観もいい山下小学校のふと2校って。

〔濱田洋一委員長「先ほど田代小ということでしたが」と呼ぶ〕

ごめんなさい、田代小で一応2校。贅沢言えば山下小もそうで、尾崎小もどこどこも残してもらいたいんですよ実際は。財政的に厳しいっていう話は聞いてますからそこまではもう考えていませんけど、できれば2校でも3校でも4校でも。最悪の場合に2校残したときに例として、海の西目、山の田代と答えただけの話です。

山田勝委員

真剣な話を聞いてね、本当に阿久根の子供たちはいいなと、こう思っただけなんですけどね。私は基本的に、こういう時勢ですからね、子供が年々生まれる数が5、6人しか、30人死んでですよ、生まれる子供たちは4、5人の世界じゃないですか。目に見えて少なくなっていく時代にですね、統廃合反対っていうのはもう言えません、私個人的にはですね。ですから、そういう今やってる、学校の適正化については、やむを得ないなという中で、なら閉校せないかん学校についてどうするか、子供たちから見たときにどうするかしたときに、一つぐらいは残したほうがいいかなあとこの学校でじゃなくて、どこか1か所ぐらいは残したほうがいいのじゃないかなという気持ちでおることは確かです。もうあなた方の気持ちは十分分かります。

木下孝行議員

参考人にお聞きします。小・中学校の統廃合の適正化の委員会でありまして、小学校に対する参考人の考え方は分かりましたけど、中学校に関しては参考人はどんな考えですか。もう、令和6年度から2校に統合していいだろうという考えと理解していいんですか。

西田数市参考人

中学校に関しては、統廃合はしょうがないという気持ちもあります。でも、三笠中阿久根中、二つはちょっと大きな学校ですよ。鶴中を小規模校という形で、子供たちには集団行動が苦手な、やっぱり大きな学校は苦手な子供もいるわけですよ。だから、小規模校という形で鶴中も残してもいいかなという気持ちもあります。

木下孝行議員

中学校のほうは2校に統廃合するということですけど、3校やっぱり残したほうがいいという考え方で理解したらいいんですか。

西田数市参考人

正直言えば残してもらいたいと思っています。

木下孝行議員

中学校は今のままでいってほしいということですね。小学校のほうに戻りまして、小学校のほうもいろんな意見もあって、参考人は将来的に統廃合は仕方ないと。その中でも特認校を2校ぐらい残して、特別支援教室もその学校には残してほしいという考え方ということで理解をします。そうしたときに、今の教育委員会の方向性は、令和6年度には7校を1校に統合すると、小学校はですね。参考人のできたら2校残してほしいという方向で仮に進んだときに、どのぐらいの時期に、2校を残す方向で決まったらいいかと。6年からでいいのかそれともまだ、その後にしてほしいと思うのか。

西田数市参考人

例として、最低でも2校と言いましたけど、3校でも4校でもいいんですよ。残してくれという地域保護者がいれば残すべきで、統廃合してもいいという、地域・学校は統廃合してもいいという考えで、これは令和6年の4月という期限を撤廃することと、それ以降とっていたんですけど、田代小学校での住民説明会で、教育委員会から生徒がいなくなるということをやっと聞いたもんですから、ちょっと来年度からも生徒がいなくて。廃校にするのか休校にするのかそこは分かりません。希望としては休校扱いにしてもらいたいというのがありますけど、だから取りあえずこれを採択してもらって、正しい判断をしてもらいながら、結局、田代小は急にそういう話を聞いたもんですから慌てているところなんですよ。まさか、もう来年度は誰もいないとなるというふうになってしまいましたので、それで、時期的にはほかの学校は令和6年の4月というのを撤廃してもらって、それ以降というふうを考えているところです。

木下孝行議員

この請願書の6番目に撤廃することということで、今参考人もその話をされたと思うんですけど。令和6年以降であればいつでもいいという考え方と理解しましたが、考え方としてももう少し具体的な方向性を参考人としては持っていないんですか。

西田数市参考人

令和6年の4月以降だったらいつでもいいというわけじゃなくて、これは地域と保護者、また阿久根市民の全体の問題ですので、みんなが納得するまではまだすべきじゃないと、実際は思っているところなんですよ、本音を言えば。みんなが、もうしょうがないなあ、もうそろそろもう統廃合も考えないかなというときはしょうがないと思ってるところです。

濱田洋一委員長

ここで暫時休憩をいたします。

(休憩 午後2時35分～午後2時46分)

濱田洋一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

ほかに質問ございますか。

竹之内和満委員

小規模校についてなんですが、まず、教育委員会が阿久根地区の小規模校は残さない方針は全く変わっていないですので、先ほどからどここの学校となっておりますが、具体的にどここの学校を残すじゃなくて、できる限り、可能な限り残す方針で進めていくことで、具体的な学校ではなくて、できる限り残してくださいと。また教育委員会の方針が変更したならば、どここの学校でと具体的にと思いますが、今の請願の段階では可能な限り残す方針で進めてくださいということによろしいでしょうか。

西田数市参考人

おっしゃるとおりです。

竹之内和満委員

それなら問題ないと思います。どここの学校を残したほうがと議論しとつたら全然始まりませんで、まず請願者の思いもあるだろうし、皆さんまた別の思いがあって、この学校を残してほしいというふうに思っていますので、そのところを確認の意味で、できる限り残すという方針ということですね。分かりました。

白石純一委員

請願事項の3番、4番、5番について伺います。

まず3番ですが、説明は今やられてるわけですがけれども、「統廃合ありきでなく、保護者、地域の方々への丁寧な説明を行い、合意形成には時間をかけ、強引に統廃合を進めないこと」という請願事項ですので、現状このように説明会がなされていないという御理解をされているということですか。

西田数市参考人

そうです。説明会は後手でしたよね、今始めてるんですよ。これを打ち出したときには、まだ説明会がまだなされてないときだったもんですから、強引に統廃合を進めないことと入れたわけです。

白石純一委員

4番なんですけれども、「学校適否の判断は、市長と教育委員会と密接に連携して、まちづくり戦略の一環として行い、地域とともにある学校づくりの視点を持つこと」という請願事項ですので、これについても、今の進め方はそうしたまちづくりの戦略の一環というふうに捉えられないと感じられたということでしょうか。

西田数市参考人

それもあって、阿久根は海と山っていう発想から、海は西目、山は田代でしょうというふうに例として言っただけの話です。

白石純一委員

5番について、「市民の多くに、小規模校存続の方針を掲げ実施している自治体のやり方や」例えば今、参考資料でお配りいただいた例などを示されたわけですがけれども、「教育の専門家などの意見も十分に知る機会を設け、市民全体がこの問題を考えられる方策で進めること」とあります。教育の専門家の御意見も参考に数名聞かれているという理解でいいでしょうか。

西田数市参考人

教育委員がつくっている協議委員会とか、難しくは分らんけど、教育委員会であつ

くっている組織は何ていうんですかね。

濱田洋一委員長

学校規模適正化協議会。

西田数市参考人

それです。教育長と教育委員の長が兼ねてというのは、ちょっとおかしいと思ってるんですね。結局、議会が議長と市長が兼務してるというふうに、何かとれるような感じで……

〔「法律が改正されて、そういうことはないと説明してやらんと」と呼ぶ者あり〕

濱田洋一委員長

教育会議ということで、これまでの教育委員の在り方は法が改正になっておりますので今言われたことではないですけれども、今、参考人が言われるのは、教育の専門家などの意見もということと、5番の事項ですから。

〔発言する者あり〕

西田数市参考人

でも、会議の中で、どうしても教育長に逆らえない雰囲気づくりになってるのは確かだと思います。物事をはっきり言えない委員の方々もいらっしゃると思いますよ。

〔発言する者あり〕

濱田洋一委員長

今、白石委員の質疑に対する答弁ということでございますので、ほかの委員の方々には後ほど挙手をして質問をお願いします。

白石純一委員

私が伺いたかったのは、教育の専門家、当市以外でも今回、小浜小学校の校長先生にも聞かれたということですが、市外の教育の専門家等に聞かれる機会があって、どういう意見が聞かれたか、具体名はおっしゃらなくても結構ですので、そういう専門家の御意見を聞かれていたら教えてください。

西田数市参考人

市内にいればしがらみがあって、なかなか本音で言えない立場の方々がいっぱいいますので、市外の教育に携わった人たちからいろいろ話も聞きながらアドバイスとかもらっているところですけど、やっぱりそういうしがらみのない市外の方々の意見を聞きながら、私は話をしてるところなんですけど、協議会を立ち上げて、結局は雰囲気です。質問・文句も言えないようじゃどうしようもないんじゃないかと思って。何て言ったらいいのかな。阿久根市でそういう組織をつくっても、なかなか意見が言えない雰囲気があるから本音のことは聞けないんじゃないですか。それは区長会も一緒だと私はそう思っています。ちょっと答えになってませんが……

白石純一委員

お伺いしたかったのは、市外の教育に携わっている方、携わっていた方の御意見をお聞きされたことがあれば、この統廃合に関してどういう御意見をお持ちだったか教えてください。

西田数市参考人

現職の校長、並びに教員、そして肩書のあった教育者たちの意見を聞いた結果、絶対小規模校は残すべきである、でも統廃合はしょうがないという回答が返ってきました。

た。

濱田洋一委員長

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、最後に参考人からありませんか。

西田数市参考人

最後になりますけど、阿久根市民の方々から聞き取りを行い、なかなか本音で話しぶらい立場の区長さんや学校関係者の皆さんがいることを理解しました。そこで、子供たち一人一人の教育を大切に、学ぶことのできる学校が必要であることを改めて理解しました。また、市外の学校の校長・教員、並びに県職員に聞き取りもしました。その中で、子供のために小規模校は絶対残すべきだと強くおっしゃっていたのがとても印象的でした。そして、これは本当に、阿久根の子供たちに対して大事なことなので、真剣に、また、私を嫌いでも正しく判断して下さるようお願い申し上げます。

濱田洋一委員長

それでは、補助者から最後に何かありますか。

渡辺久治補助者

令和6年4月の統廃合の期限を撤廃し、生徒数によっては維持し得ない学校は当分の間は休校扱いとして、この時期にあった学校の在り方を探っていただきたい、いろんな意見を集めていただきたいと考えます。ありがとうございました。

濱田洋一委員長

それでは、以上で参考人及び補助者への質疑を終了いたします。

それでは、私から御礼を申し上げます。

参考人と補助者におかれましては、大変お忙しい中、御出席くださいましたことに心から感謝申し上げます。本日お伺いしたことを今後の審査に活かしてまいりたいと思っております。誠にありがとうございました。

それでは、退席をお願いいたします。

〔参考人・補助者退室〕

ここで、暫時休憩いたします。

(休憩 午後2時59分～午後3時)

濱田洋一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

続きまして、この請願事項を所管する教育委員会教育総務課及び学校教育課に対し、現状や問題点などについて説明を求める必要があるかどうかについて御意見をお伺いいたします。

御意見ございませんか。

白石純一委員

お願いしたいと思います。

竹原信一委員

これはもう必要ないと思いますよ。これは請願の出たこの文書に対して自分たちが判断すればよいことで、それにその後、教育委員会といったところには、また別の考え方というか、場を持って話をしていけばいいことでこれについて職員を呼び出してどうってする必要は全くないと思います。

濱田洋一委員長

先ほど白石委員からこの請願について所管課に出席を求めたいということでありましたが、ほかの委員の皆様方は必要なしということでもよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、この請願における所管課の出席は求めないということに決定させていただきます。

それでは、この請願について審査を終了し、討議、討論、採決に進めたいと思いますが、それでよろしいか皆様方に御意見をお伺いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

御意見がありませんので、審査を終結し、請願第1号について採決に入ります。

念のため申し上げます。賛否の表明は、討論の中でお願いいたします。

まず、討議を行います。

白石純一委員

参考人の質疑では、かなり細かく具体的な質疑が出て、参考人も答えられました。例えばどの学校を残すとか、何年ぐらいをめどにとか、それは確かに参考人のお考えではあったでしょうけれども、具体的にこの請願書の中にはそういったことは全く反映されてないわけで、この請願書の内容を採択するか、採択しないかに集中して、討議、討論、そして採決をすべきだということの確認をさせていただければと思います。

濱田洋一委員長

今、白石委員からございました。今回、提出されましたこの請願書について、皆様方の賛否につきまして諮っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

ほかにありますか。討議です。

岩崎健二委員

陳情であれば、採択、不採択、趣旨採択というのがあると思うんですが、請願についてはどうなりますかね。

濱田洋一委員長

休憩に入ります。

(休憩 午後3時5分～午後3時6分)

濱田洋一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

ただいま討議中ですが、ほかにございませんか。

木下孝行委員

討議ということで私の考えを述べさせていただきます。

私は個人的に、統廃合に対しては住民の合意形成が十分整っていないと考えており

ます。

そういう中で、皆さんに訴えたいのは、これは趣旨採択か、採択、どちらかで判断すべき事項と考えております。特に教育委員会の方向性は拙速であったと思います。先ほど言いましたように住民合意はまだまだ不十分だと思いますし、請願者の意見に一部賛同するところもあります。小規模校はある程度、1校、2校は残すべき、それはずっとじゃなくて、教育委員会が住民合意を得て、最初の目的である市内の小学校の統廃合計画に基づいた判断ができるように持っていけばいいんだらうと思いますので、そういう意味ではこの請願の趣旨にも賛同するところもありますので、できたら皆さんにもそういう判断をしていただきたいなと思います。

白石純一委員

今ですね、各小学校校区ごとに説明会がされております。偶然なのか小さいほうから3校終わりました。私は3校ともその説明会には参加させていただきましたが、1校についてはごく小人数の子供たちが他の小学校に通いたいということですので、早ければ来年4月からその小学校に通う生徒がいなくなる可能性はあるという教育長のお話でした。あとの小規模校2校についてはそのような生徒はおられないということでした。つまり、1校を除いて、拙速な統廃合には、少なくとも保護者の方々は望んでおられないのかなという印象を私は受けました。そのことだけ皆さんと共有したいと思います。

濱田洋一委員長

ほかにございませんか。

それでは、休憩に入ります。

(休憩 午後3時9分～午後3時14分)

濱田洋一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

まず、この請願第1号について、表決を諮る、もしくは継続審査とするということで皆様方の御意見をお伺いいたします。

仮屋園一徳委員

小規模校の存続ということですので、継続審査の必要はないと思います。表決をお願いしたいと思います。

中面幸人委員

私もその考えですが、例えば本来の学校規模適正化特別委員会の設置は、全体を捉えた調査委員会だと思っております。今回の請願の調査・審査とは分けて考えればいいと思っておりますので、例えば、保護者の思いとか請願者の思いを議会として採択してやって、教育委員会の方針に反映すべきだと思いますので、私は継続審査ではなくて、今回の表決でお願いしたいと思います。

白石純一委員

表決していただきたいと思います。理由は、説明会に出ても保護者の方が非常に混乱している場面も見受けられますので、議会としての意思表示は早めにしたほうがいいと思います。

濱田洋一委員長

ほかにございませつか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、賛否の表明は、討論の中でお願いいたします。

討論ございますか。

中面幸人委員

請願第1号、学校規模適正化における小規模校の存続を求める請願書に対して、採択に賛成の立場で討論をいたします。少子高齢化、人口減少の時代の流れの中で、小中学校の統廃合に反対するものではありませんが、特別委員会による各学校の現地視察で感じたことは、約10年前に比べて、各学校とも特別支援教室の多さに驚きました。また、請願書提出者の提出資料によっても、県内の特別支援教室に通う子供たちが毎年増加している状況も確認しました。大きな学校で学ばしたいという保護者もいれば、大規模校になじめない子供たちの受皿として可能な限り小規模校を残してほしいという保護者もおります。行政主導の学校規模適正化が本当に子供たちのことを思っているのか。子供たちや保護者の考え、思いが主役となった方針転換をお願いしたいと思います。このような理由で、この請願書について議会で採択し、教育委員会の方針に反映してもらうために、ぜひ採択に賛成していただきますよう皆様方の御賛同をよろしくお願いいたします。

岩崎健二委員

私は趣旨採択でいいと思います。今、特別委員会の審査中であります。特別委員会の結論が出ていない中での採択は難しいんじゃないかと。請願者の意図はよく分かりますので趣旨採択でいいんじゃないかと思ひます。

竹之内和満委員

採択することに賛成の立場です。請願事項は大きく二つに分けると、小規模校の存続と、再編は時間をかけてやるべきという2点になろうかと思ひます。当然のことであり保護者や地域の方々の思いもそこにあると思ひます。採択は、何ら今後の特別委員会の話合いの足かせになるとは思ひません。3回目の各地の説明会が現在開かれておりますが、先送りするのではなく議会としての意思表示をするよい機会だと思ひます。この請願に対して採択することを皆さんに主張いたします。

白石純一委員

採択に賛成の立場で討論いたします。この請願事項6件については、確かに文章的に意味が明確でない部分もありますが、請願者の意思を確認したところよく理解できたものでもあります。この6件の事項について全て市民のため、まず市民の混乱を押さえ、市民が納得する教育行政を進めていくためには基本的な事項だと思ひます。そして現に、1校で、統廃合も致し方ないなという動きのある小学校の動きを何ら阻害するものでもないものです。したがって、この請願については採択すべきものと考えます。

木下孝行委員

私は趣旨採択が適切ではないかなと思ひます。その理由は、参考人の意見を聞いて、参考人の考え方が分かりました。ですけど一部矛盾するようなところもあつたりしております。その中で我々は特別委員会も設置しております。その参考には十分、意見

としてなっただろうと思いますので、趣旨採択でお願いしたいと思っております。

濱田洋一委員長

ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ここで討論を終結いたします。

ただいま、討論の中におきまして、趣旨採択、または採択という討論をいただきました。

ここで、休憩を入れます。

(休憩 午後3時21分～午後3時24分)

濱田洋一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

それでは、請願第1号、学校規模適正化における小規模校の存続を求める請願を採決いたします。

本請願は趣旨採択すべきものと決することに賛成の委員の挙手をお願いします。

〔挙手多数〕

挙手多数でありますので、請願第1号、学校規模適正化における小規模校の存続を求める請願を趣旨採択すべきものと決しました。

それでは、採決されました請願に関する委員会審査報告書の作成及び委員長報告につきましては、委員長に御一任願いたいと思っておりますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。

○ 本市の小・中学校における適切な規模に関する調査について

濱田洋一委員長

それでは続きまして、11月22日の全員協議会において説明されました学校の統廃合に関わる今後の方向性等についてに関しまして、所管課に質疑を行いたいと思っておりますが、御異議ございませんか。

先日11月22日の全員協議会においては、所管課から資料の説明だけがありました。

そして後日、このことについて質問をお受けするというございましたので、そのことをございます。

よって、本日、所管課に質疑を行いたいと思っておりますが、そのことよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、教育総務課及び学校教育課は入室してください。

〔教育総務課及び学校教育課入室〕

それでは、学校の統廃合に関わる今後の方向性につきまして、先日、所管課よりこのことにつきまして説明をいただきました。

これにつきまして質疑を行いたいと思います。

質疑ございませんか。

仮屋園一徳委員

統廃合は令和6年4月からということなんですけど、その前に試験的にといますか、小規模校から学校へ来てもいいよということで、全員来た場合には統合を早めることがあるというような説明だったと思うんですけど、1点目としては、そうなった場合に施設等の準備ができるのかどうか。一部の人々が試験的に行ってみようということで、ほかに残された生徒を不安にさせるのではないかと。場合によっては、私は行きたくないけど全員がもう行くことになるというふうになってしまうんじゃないかと懸念されるんですけど、その辺についてはちゃんと説明をされてるのかその辺をお聞かせください。

山元教育総務課長

あらかじめ、通学の弾力化としてほかの学校に通うことを希望された場合、施設の準備ができるのか、受入れ側の学校の施設ということでもよろしいでしょうか。

〔仮屋園一徳委員「はい」と呼ぶ〕

そこについては、まず、現在の11月末時点でこの通学の弾力化につきましては、御希望があればお出しいただきたいということでお示ししていたところなんですけど、この11月末現在の状況といたしましては、対象となります小学校6校、それから中学校1校のうち2校の4名の児童の方から届出があったところでございます。このうち、田代小学校につきましては校区内の児童3名全員がほかの学校へ通学を希望されております。お一人は阿久根小学校へ、そして二人が鶴川内小学校にということで希望されておまして、このことについては、12月9日に田代地区で開催されました合同説明意見交換会におきましても、地域の方々にもお伝えをしたところでございます。

受入れ側の施設につきましては、今の人数でいきますと受入れ側の学校としては令和4年の4月から対応は可能だと考えているところでございます。それから一部の人がこの申出をしたことによってほかの方が不安になられるのではないかとということにつきましては、あくまでこの措置は通学の弾力化ということで、ほかの学校に行きたいというのを希望される保護者の方々に対しての措置ということで御説明を申し上げているところでございまして、教育委員会としては、あくまで行きたいという御希望のための措置ということで、御説明をさせていただいているところでございまして、これをもってほかの方が不安になるというようなことはないかと教育委員会では考えているところでございます。

仮屋園一徳委員

よく分かりましたけど、具体的に言いますと、今言われたように、小規模校、少ないところについては全体的にそういったことができると思いますけど、山下、西目等については一定の生徒さんがいらっしゃるわけですので、その部分から一部抜けたりするとほかの生徒にすごく影響を与えるんじゃないかと思うんですけど、11月末ですかね、その辺で意向調査をされたということですので、はっきりと人数は言われなくてもいいですけどそういった懸念はないんですかね。

山元教育総務課長

このことにつきましては、ほかの学校からそういった件というのは、特になかった

んですが、ただ一部の学校につきまして間接的にはあるんですけども、教育委員会に通学の弾力化の申出のお知らせの御案内をさせていただいたときに、これが令和6年4月の統廃合が決定しているのではないかと受け止め方をされてるというお話が間接的に教育委員会にございましたので、そうではなくて、あくまで希望される方に措置をするものでございまして、決定したものではないということで補足の御説明もさせていただいてるところでございまして。

木下孝行委員

今の話の延長で、田代小学校は3名在校生がいて、鶴小に2名が行く、1名は阿久根小学校に行くということで、この中の説明では廃校が決定したものではないということで理解すればいいんですか。休校にするという方向でもらわんと、委員会が審査中であって、教育委員会が廃校にしたならこれはまずいと思うんですよね、取扱いを。やはりこの委員会で結論が出るまでは休校扱いにしてもらわんと、教育委員会が独断にしたという話になってしまうんですが、そこら辺どう説明してるんですか。

山元教育総務課長

ここの部分につきましては、12月9日の説明会におきまして田代小学校の取扱いにつきまして、統廃合あるいは休校ということにつきまして田代小学校の保護者の方から地域住民の方々にその考え方について意見の取りまとめを御依頼させていただいているところでございます。今後、その保護者や地域住民の方から集約されてまいります意見を踏まえまして、教育委員会としてもその部分については検討してまいりたいと考えているところでございます。

木下孝行委員

その部分は大変重要なところで、私たちも休校にしてくれという要望も聞いておりますし、議会、委員会の結論が出てからしっかりと決定はするべきだと思いますので、そこは十分配慮していただきます。

白石純一委員

11月22日の協議会で配られました書類を見てるんですけども、四角の中の1の(5)ア小学校、一つ目の丸に、令和6年4月の統廃合に係る対象校についてとあります。また通学の弾力化でも確か同じような表現だったかと思いますが、これを見ると令和6年4月の統廃合を前提とした表現として読めるわけですよね。正確に書くとしたら令和6年4月の統廃合を目標として掲げた対象校についてという意味ですか。

山元教育総務課長

ここの前段といたしましては、あくまでここは一部抜粋としておりますけれども、第2次基本方針におきましては、基本的な方向性といたしまして小学校3校、中学校2校の5校を令和6年度を目途にしているということを前提とした上での御説明ということで記載させていただいているところでございます。

白石純一委員

ですからこの文章だけ見るとそのようには読めないですよね。「に係る」だから。もうそれが決定したよって、それに関係する対象校と読むのが普通なので、通学の弾力化のときも、もう決定事項のように保護者が感じたということがあったということは、それだけ教育委員会が保護者に誤解を与えているということではないんでしょうか。いかがでしょう。

山元教育総務課長

保護者の方、地域住民の方々にこの修正点につきまして御説明をさせていただく際に、資料といたしましては、まず学校規模適正化基本方針のダイジェスト版をお示ししまして、その中で、基本的な方向性として先ほど申し上げました小学校3校、中学校2校合計5校を令和6年度を目途にしておりますという、まず基本方針の概要を説明させていただいた上で、その後この修正点についてということで、こういう通学の弾力化ですとか、統廃合の進め方について御説明をさせていただいてるところです。まず基本方針の考え方を御説明させていただいた上で、この修正点についても御説明をさせていただくということで、説明会に来ていただいた方については御理解いただけたものではないかと考えているところでございます。

白石純一委員

教育委員会は子供たちに教育をする立場ですから文章は正確に書いてもらわないとですね。誤解を十分に招きうる表現だと思いますよ。

もう1点。同じページの(2)のイ、「保護者と地域住民の意見が、統・廃合を進めてほしいといった方向で一致している小学校については」。一致している小学校あるんですか、この時点で。

山元教育総務課長

この方向性をお示ししてるときに、実際に一致している学校ということではなくて、お伝えしたかったのは、今後一致している学校があった場合にはということでの趣旨でここで記載しているところでございます。

白石純一委員

これは一般質問でも私以外の議員からも指摘されたところだと思うんですけども、一致した場合はとか、一致した際にはというのが正確な表現ではないですか。

山元教育総務課長

そのような配慮ができれば、なおよかったかと思っただけでございます。

白石純一委員

これは11月22日議会に示され、その後一般質問でそこを指摘されました。そのときの答弁はどういったものだったんでしょうか。ちょっとすいません、記憶にないので教えてください。

濱田洋一委員長

ここで暫時休憩いたします。

(休憩 午後3時43分～午後3時55分)

濱田洋一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

白石純一委員

質問を変えたいと思います。この「保護者と地域住民の意見が、「統・廃合を進めてほしい。」といった方向で一致している小学校については、」という文章は厳密には正しくない。正しくは、といった方向で一致することになる小学校、あるいは一致した場合は、一致した際には、という趣旨が正しい意味だという理解でよろしいです

か。

山元教育総務課長

はい。ここにお示ししている趣旨といたしましては、今委員がおっしゃるような趣旨でございます。

白石純一委員

そうするとですね、この今のままの文言では、もう一致している学校があるように誤解を生じるわけです。12月に入ってから9日以降、各小学校で説明会がありまして同じ内容の文書が配られました。その内容も全く同じでありました。つまり、議会で少なくとも、そこは表現がおかしいんじゃないかという指摘があったわけですから、当然、その趣旨で変更すべきだと思われませんが変えなかったのはどうしてですか。

山元教育総務課長

ここについては、資料としてはそういう趣旨でお示ししているところでございまして、説明する際に一致しつつある学校がある場合、今後学校があった場合にはどのような形で御説明させていただいてるところでございます。

白石純一委員

私もそのように伺いました。一致しつつある学校はと。ところがこの文章はその意味じゃないですよ。一致していると。どうして修正できなかったんですか。文章を持ち帰って、その日、参加していなかった方、また、参加していた方も全て一言一句聞き漏らさないということは難しいです。あくまでもこの資料を基に判断するわけですから、一致しているという文書は誤り、事実でないことを市民に配布したと。教育に携わる委員会がそれでいいんですか。

山元教育総務課長

議員の御指摘の趣旨については理解するところですが、教育委員会としましては、この文言でもそういう趣旨の文章になるのではないかとということで御説明をさせていただいてるところでございます。

白石純一委員

なりませんよ。そうやって、先ほどの件もそうですけれども、統廃合ありきで進めるんだという考えがあるからこそこういう表現になるわけですよ。それを議会で指摘されても、一般質問で指摘されてもそれを修正しない。全く議会を軽視してるんじゃないんですか。いかがですか。

山元教育総務課長

決して議会の御意見を軽視してるのかそういうことではなくて、説明の中で、その部分も誤解のないように丁寧に説明をさせていただきたいと考えているところでございます。

白石純一委員

議会から指摘、議会の一般質問で指摘があつてそれを認めたんじゃないですか。確かにこの表現はまずいということを理解されたのであれば、当然修正されるべきだし、それを修正していないということは議会の議員の指摘を真に受けていなかったということよろしいんですね。

山元教育総務課長

決してそういうことではなくて、そのような趣旨で説明のほうはさせていただいて

るということで御理解いただければと思います。

白石純一委員

もう水掛け論になるので終わりますが、幾らそういう趣旨で言っても、実際文字で残るのはこれだけなんです。そこに12月9日の時点では既に一致している学校があるとうたいながら、3月までに意見をまとめて出してくださいと。やっていることは矛盾してるじゃないですか。違いますか。

山元教育総務課長

表現に足りないところあったかもしれませんが、教育委員会としてはこの時点で一致してるところがあるということではなくて、この話合いの中で一致している学校がある場合はということで表現させていただいてるところでございます。

白石純一委員

もう本当あきれましたね。そんな答弁で教育委員会が子供たちに教育できるんですか。終わります。

山元教育総務課長

今回御指摘を受けましたので、またこの部分については検討させていただければと思います。よろしくお願いします。

竹之内和満委員

田代小学校についてお聞きしたいんですが、説明によりますと3人のうち1人は阿久根小学校に、2人は鶴川内小学校ということですが、他校に移るのは通学の弾力化で移るのでしょうか、それとも統廃合の前倒しで移るのでしょうか。お答えください。

山元教育総務課長

この部分につきましてはあくまで通学の弾力化ということで、規模の大きな学校に通わせたいというような御希望があつての申出というふうに理解をしております。

竹之内和満委員

通学の弾力化の結果、田代小が誰もいなくなつたっておかしくないですか。もう統廃合前提の通学弾力化措置だったとしか思えませんけど、いかがでしょうか。

山元教育総務課長

ここにつきましては、保護者の方々もこの申出を出されるに当たっては、相当悩まれたというふうにお聞きしております。しかしながら、やはり自分の子供たちを一定の規模のある学校に通わせたいというような思いを強く持たれておられるということで、田代小学校に関しましては、保護者の方々も地域の区長さん方にも個別に自分たちの思いを御説明されて、地域の方もそれを了解されてこういう形になったというふうに教育委員会でも伺っているところでございます。

竹之内和満委員

通学の弾力化で行くということは、通学は保護者が連れて行かないかと。この3人についても保護者が連れて行くということでしょうか。

山元教育総務課長

通学の弾力化につきましては保護者対応とさせていただいているところでございます。ただ、田代小学校の場合は、在校生の皆さんが希望されたということになりますので、学校そのものが、田代に通う子供さんがいなくなるという状況もございまして、ここにつきましては、今後、保護者の方等の御意向もお伺いしながら、どのよう

な対応ができるかということも教育委員会としても検討ができればというふうに、現時点では考えているところでございます。

竹之内和満委員

ということは、もう田代は休校措置を行うということになります。誰もいなければもう統廃合になったも同然じゃないでしょうか。

山元教育総務課長

この部分につきましては、先ほども御説明しましたように、保護者・地域住民の方々に休校あるいは統廃合につきまして地域の方々の御意見を取りまとめていただきたいとお願いしているところでございまして、まずはその御意見を教育委員会としても伺いさせていただきたいと考えているところでございます。

竹之内和満委員

今後見守りたいと思います。

もう一つだけ、ずっと小学校ばかり言ってるんですが、中学校。鶴川内中学校は統廃合に関してはどんな意見が出ていますか。したくないとか、してもいいとか、いかがでしょう。

[発言する者あり]

濱田洋一委員長

休憩します。

(休憩 午後4時5分～午後4時6分)

濱田洋一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

山元教育総務課長

中学校の部分につきましては地域の保護者の方々の御意見等につきましては、一定の規模の学校で通わせたいという御意見もございましたが、やはり小規模校のよさ、あるいは鶴川内中学校については特別支援教室などもございますので、そういった学校として残してもらいたいというような御意見がそれぞれあるところでございます。あと、折多地区に関しましては、折多小学校から中学校に行く際に、鶴川内中、三笠中、阿久根中と三つに分かれるという特別な事情もございまして、できれば小学校から同じ学校にということで、三笠中学校に行けるようにできないかという御意見もあるところでございます。

木下孝行委員

今の竹之内委員の発言に関して、最初に私が発言をしましたよね。今の発言の中で地域・保護者に十分説明して判断していきたいようなことだったけど、まずは議会。地域住民の了解をとるのは当然だけど、我々が委員会を継続中でやってるわけで、委員会の判断も聞いて決めるという答弁をしないとおかしくなるよ。

山元教育総務課長

当然のことながら、保護者・地域住民の方に加えまして、議会の中での御議論の経緯というのにも十分に踏まえて検討してまいりたいと考えております。

木下孝行委員

今後は十分、地域住民と保護者の意見を聞きながら、議会の判断を仰ぐまで休校という形でやってください。お願いします。

濱田洋一委員長

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、質疑を終結いたします。

それでは所管課の方々退席をお願いします。

〔教育総務課及び学校教育課退室〕

次に、今後の審査についてですが、前回の委員会でお諮りしたとおり、議員と語る会の中で児童・生徒の保護者などの御意見を伺うことになっております。

このことにつきましては、広報広聴委員会の委員長と連携して進めてまいりたいと思いますので、委員長に御一任願います。

以上で、本日の学校規模適正化調査特別委員会を散会いたします。

(散会 午後4時10分)

学校規模適正化調査特別委員会委員長 濱田洋一